

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
33104	子どもの発達と社会 Society and Developmental Stage of Children	服部壮一郎・ 入口 愛			1	選択	1.2後期

科目の概要

本科目においては、子どもの発達や子どもを支援する社会のあり方について、様々な視点から学ぶことを目的とする。本目的はディプロマポリシー②・③・④・⑥に相当する。これらを身に付けるために、次項目について学ぶ。子どもの発達を言葉の視点から学び、働きかけ方や語りかけ方について理解を深める。また、子どもを取り巻く環境の変化について学び、子どもを支援していく社会のあり方について考える。本授業では、学生たちが社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等に関する一般的な知識・技能を身に付ける(②)。さらに、獲得した専門的知識・技術を活用し、自分の課題を解決する力を身に付ける(③④⑥)。

学修内容	到達目標
① 子どもとは何かについて考え、理解する(②)。 ② 子どもの言葉の発達について学び、子どもの関わり方や絵本読み聞かせの楽しさを知る(③)。 ③ 子どもの発達を支援する制度や取り巻く環境を理解し、社会の課題について考察する(④・⑥)。	① 子どもとは何かについて考え、理解することができる(②)。 ② 子どもの言葉の発達について学び、子どもの関わり方や表現遊びの楽しさを知ることができる(③)。 ③ 子どもの発達を支援する制度や取り巻く環境を理解し、社会の課題について考察することができる。(④・⑥)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	・子どもを取り巻く環境について、日常的に観察したり考えたりして努力をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	・課題レポートに主体的かつ積極的に取り組み、やり遂げることができる。
考え抜く力	課題発見力	・子どもの発達を支えるために社会は何をすべきか、課題を見出していく姿勢を持つことができる。
	計画力	
	創造力	・様々なニーズを持つ子どもを支援する社会の役割、さらに自分は何ができるか考えることができる。
チームで働く力	発信力	・グループワークでは、自分の意見を整理しながら述べるることができる。
	傾聴力	・授業中は他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	・遅刻、無断欠席などをせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：教員の作成プリント
参考文献：なし

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：なし
資格との関連：ピアヘルパー

学修上の助言	受講生とのルール
・日常生活の中で、子どもの様子を観察し子どもに関する情報に関心を持つこと。 ・子どもたちを取り巻く状況を、常に関心を持って捉えていくこと。	・私語や勝手な言動をする学生は、授業を受ける権利はないとする。 ・授業態度及び発表内容、提出レポート等によって評価する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
		レポート		45	①	✓	
					②	✓	
③					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			45	①	✓		
				②	✓		
	③						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>①子どもとは何かについて深く考え、記述することができる。</p> <p>②子どもの言葉の発達について、明確に説明することができる。子どもとの関わり方や表現遊びの楽しさを説明することができる。</p> <p>③子どもの発達を支援する制度や子どもを取り巻く環境を十分に理解した上で、社会の課題について深く考察し、記述することができる。</p> <p>上記の到達目標について、レベルS(秀)の基準は、成果発表、レポート、社会人基礎力の総合計が90点以上とする。レベルA(優)の基準はレポート、成果発表、社会人基礎力の総合計が80点以上～90点未満とする。</p>	<p>①子どもとは何かについて自分なりに考え、記述することができる。</p> <p>②子どもの言葉の発達について、概要を説明することができる。子どもとの関わり方や表現遊びの楽しさを自分なりに説明することができる。</p> <p>③子どもの発達を支援する制度や子どもを取り巻く環境を理解した上で、社会の課題について考察し、自分なりに記述することができる。</p> <p>上記の到達目標について、レベルB(良)の基準は、成果発表、レポート、社会人基礎力の総合計が70点以上80点未満とする。レベルC(可)の基準はレポート、成果発表、社会人基礎力の総合計が60点以上～70点未満とする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 本科目の目的と内容について理解する。 自分の幼少期を振り返り、心に残っていることを思い出し、子ども時代について考える。	講義 発表 発表の解説をし、学びのフィードバックをする。 本科目で学びたいこと、関心のあることをレポートとして記述する。	本科目の目的と内容について理解することができる。	予習：自分の幼少期の印象に残っていることをまとめておく。 復習：本科目の目的と内容について確認する。	45	主体性 実行力 傾聴力 規律性
2	ことばの役割、子どものとってことばとは何かを学ぶ	講義 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	ことばの役割、子どもにとってのことばについて、おおむね理解することができる。	予習：どのようなときにことばを使っているのかを考える。 復習：子どもにとってのことばについて、確認する。	45	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	子どものことばの発達と絵本の関係、絵本の種類について学ぶ。	講義 質疑応答によるフィードバック 図書館を利用して、さまざまな絵本を閲覧する	子どものことばの発達に絵本がどのような役割を果たしているかをおおむね理解することができる。	予習：絵本を数冊、手に取って見たり、読んだりする。 復習：これまで手に取らなかったジャンルの絵本を手にとって、見たり、読んだりする。	45	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	子どものことばの発達①(胎生期)、ことば遊びの絵本を学ぶ	講義 制作(ことば遊び絵本の企画) 質疑応答によるフィードバック	ことばを獲得する以前の胎生期の特徴について、おおむね理解することができる。	予習：ことば遊び絵本を見たり、読んだりする。 復習：制作することば遊び絵本の内容を確認する。	45	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
5	子どものことばの発達②(乳児期前半)を学ぶ ことば遊び絵本を制作する	講義 動画視聴 制作(ことば遊び絵本の制作) 質疑応答によるフィードバック	乳児期前半のことばの発達における特徴について、おおむね理解することができる。	予習：制作することば遊び絵本の内容を再度、確認する。 復習：制作したことば遊び絵本の完成度を高める。	45	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
6	子どものことばの発達③(乳児期後半)、絵本の読み聞かせについて学ぶ ことば遊び絵本を共有する	講義 動画視聴 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	乳児期後半のことばの発達における特徴について、おおむね理解することができる。	予習：自身の絵本の読み聞かせの体験をふり返る。 復習：読み聞かせをする絵本を数冊、ピックアップする。	45	主体性 実行力 傾聴力 規律性
7	子どものことばの発達④(幼児期前半)、絵本の読み聞かせの実践	講義 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	幼児期前半のことばの発達における特徴について、おおむね理解することができる。	予習：絵本の読み聞かせを練習する。 復習：絵本の読み聞かせをとおして得た気づきをまとめておく。	45	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
8	子どものことばの発達⑤(幼児期後半)、子どものことばの発達と絵かきうたについて学ぶ	講義 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	幼児期後半のことばの発達における特徴について、おおむね理解することができる。	予習：自身が知っている絵かきうたについてまとめる。 復習：子どもにとっての絵かきうたについてまとめる。	45	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	教育を受ける権利：義務教育の意味と教育の機会均等の原則を学ぶ。	講義 リアクションペーパーの提出 質疑応答によるフィードバック	公教育の仕組みを説明することができる。	予習：自分自身の学校体験を振り返る。 復習：どのような子どもが教育から排除されやすいか整理する。	45	主体性 実行力 傾聴力
10	子どもの権利：子どもの権利条約の理念と子ども基本法の意義を学ぶ。	講義 リアクションペーパーの提出 リアクションペーパーへのフィードバック	子どもの権利条約の一般原則を説明できる。	予習：子どもと大人の違いを考えておく。 復習：子どもの意見を聴くための取り組みを整理する。	45	課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
11	多様な学びの保障：学校における不登校児童生徒への支援について学ぶ。	講義・動画視聴 リアクションペーパーの提出 リアクションペーパーへのフィードバック	不登校児童生徒への支援のあり方を考えることができる。	予習：フリースクールについて事前に調べておく。 復習：授業で取り上げた事例について整理する。	45	課題発見力 傾聴力 規律性
12	子どもの貧困と居場所：経済的支援制度と居場所づくりについて学ぶ。	講義・動画視聴 リアクションペーパーの提出 リアクションペーパーへのフィードバック	子どもの貧困の特徴を説明することができる。	予習：子どもたちの遊び場や居場所を調べる。 復習：居場所づくりの取り組みを整理する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性
13	インクルーシブ教育：インクルージョンの理念と発達障害について学ぶ	講義 リアクションペーパーの提出 リアクションペーパーへのフィードバック	インクルーシブ教育の理念を説明できる。	予習：インクルーシブ教育について調べておく。 復習：合理的配慮に関する事例を整理する。	45	主体性 実行力 創造力 規律性
14	児童虐待の防止：要保護児童への支援体制について学ぶ。	講義 リアクションペーパーの提出 リアクションペーパーへのフィードバック	児童虐待の特徴を述べることができる。	予習：スクールソーシャルワーカーについて調べておく。 復習：地域の関係機関について整理する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性
15	まとめ：第9回以降の授業を振り返り、レポートの書き方を学ぶ。	オンデマンド レポートの提出 レポートに対するフィードバック	レポートのテーマを選び、自分の考えを述べることができる。	予習：第12～14回のうち、自分がレポートにまとめたいテーマを決める。 復習：最終レポートを作成する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力